

坂井場

斗争宣言

1935.5.17

坂井場労働組合  
斗争宣言本部  
坂井場労働組合

終刊の辞

我等が現處極まりなき資本家  
に戦い直して十七日、各社の  
如き、支持の援に依り遂に敵を  
全く死地に追ひ込み、茲に勝利の  
告をなし得るを喜ぶとするもの  
あります。

然しながら我等の解決は我等自身望  
みを得たるも、若し元札、會費、退  
の一事が譲り傳へられんか、元札二元  
階級戦線に異常なる悪影響を  
及ぼすものにつき、如何なる条件下に  
勝利と云ふかについて以下所熟議の  
上、批判的願ひ上げます

資本家坂井場

坂井場工業より、今日の工場を管理  
に任ぜられたのは従来を以て之れに  
充て、工場法も健康法も、  
視し、全く往昔の奴隷的駆使の  
現況を、

取入は

全部旋盤仕上の熟練工である故  
重工業の盛んなる今日、よりよい所  
に行くことが出来るから、坂井工場に  
は居たらない、  
叩きつけたり手当を取って他所  
に就取することを望んで来た。

迎撃するに彼等、取入を通じても  
通する長は単に物質的待遇に  
けでなく、それによって現はされる所  
の感情的な鋭い対立、即ち今日  
まで坂井から受けて来た、  
酷過、不儀、背徳に対する限りなき  
怨恨、元札に伴ふ坂井に対する復  
讐の意思は何ともしることが出  
来ない程の深き支持である。

工場主は

同じく者を五名も解雇して、他は  
全部帰場と欲し、殊に殆ど二人  
前に近き技術を有する徒勞者  
欲し、は割り切つてある。

然し坂井としては割りの起る、又  
半はあつたの意、更に解決  
条件を有利に導かんがために、全  
負解雇、  
然し坂井としては、まさか、争闘  
側が全負解雇を承認しやうと  
は、  
争闘側は得たりとて、全負解  
雇争闘の面を求む即座に提出した  
進歩を取られた工場主は、今更そ  
れは戦術であったとは、立會人の手  
前言へなかつた。

解決

後者は一歩も譲はなかつた、  
た、取入は明日でも就取が出来ら  
に既に決つてゐる。  
解雇手当支拂は取り得た。

故に金、三千九百圓の解雇手当獲  
得を以て勝利解決と、  
何れの金届工場も

今、  
最後の解決交渉に於て坂井は到身  
本音を吐いた。即ち「また来て欲しい」と。  
然し誰が行き手がない程大工場に口が  
ある。事實今回解雇になつた熟練  
工中にはどうして坂井の労働組合に  
はなかつたならぬ特殊の技術士が  
から坂井もこれには大分困つてゐる。  
かくては坂井工場の破滅もまじり遠  
くはあつないといはれてゐる。

争闘は

次、他を解決条件を以て今週の  
ストライキを打ち切り、  
一時から争闘本部に於て解  
闘式を挙行し、  
我々は、  
坂井労働組合

内訳

取入 十七名  
徒勞 九名

- 一 争闘費用全額支給。
- 一 争闘中の日給全額支給。
- 一 取入の前借金は釋引き、  
すること。
- 一 解雇手当は三千七百圓

応援団有志各位

過般未至が坂井労働組合製作所  
争闘に対し絶大なる序後援を賜  
り有難く仰礼申し上げます。  
去る十六日前記の如き条件を以て  
解決致しました。

四月十日争闘養生以來半月間  
果敢に戦ひ得ましたことは偏に貴団  
体の序後援の賜物と深く感謝し  
一九三五、五、一七  
坂井工場争闘  
関東工聯本部

が四月に入り、自然養生前に、  
の不平となり、取入の要求となり、  
著手手交したりしたが、立會人立、  
の覚悟も頑固な工場主には反  
紙に身づく、  
元札のみか、使はれるものか、  
求とは何事かと去つた形、  
書を二度迄破棄した上先頭立  
つ活動分子を、  
余りのこと、徒勞らは、  
めく腰を組み進むを、  
著は一躍して、  
行く可く決心した。

後者は

入所以来既に三年、四年を経、  
旋盤工として、仕上げ工として、  
に近くなつてゐる。  
坂井にて、三月、五月の小使、  
時、  
才以上は取れるから、  
場を、